



米穀機構 情報部

No. 5

2007年12月発行

(社)米穀安定供給確保支援機構(米穀機構)情報部
〒102-0083 東京都千代田区麹町3-3-6
TEL.03-3222-9583 FAX.03-3264-1771

米穀機構情報部では、お米に関する様々な情報をホームページ「米ネット」及び紙媒体により提供をしています。

その一環として「米穀機構・情報部かわ版」NO.5を発行いたします。今回は、19年産米の生産調整の取組状況、在庫の状況、価格の動向、20年産米の需要量に関する情報等を提供いたします。

I 平成19年産米の生産調整の取組状況

●主食用水稲作付面積は、米の需要量の減少に対応するほどには減っておらず、過剰作付けは増加傾向(図表1)。

図表1 全国の生産調整の取組状況

年産	生産目標数量 ①	実生産量 ②	②-①	①を面積換算 したもの ③	実作付面積 ④	④-③
	千トン	千トン	千トン	千ha	千ha	千ha
15	8,536.4	7,624.4	▲912.0	1,629.1	1,630.5	1.4
16	8,574.4	8,598.8	24.4	1,633.2	1,658.4	25.2
17	8,510.4	8,933.3	422.9	1,614.9	1,652.3	37.4
18	8,331.0	8,397.4	66.4	1,574.9	1,642.9	68.1
19	8,284.8 (需要見通しは833万トン)	8,542.2	257.4 (需要見通しとの差21万トン)	1,566.1	1,636.9	70.7

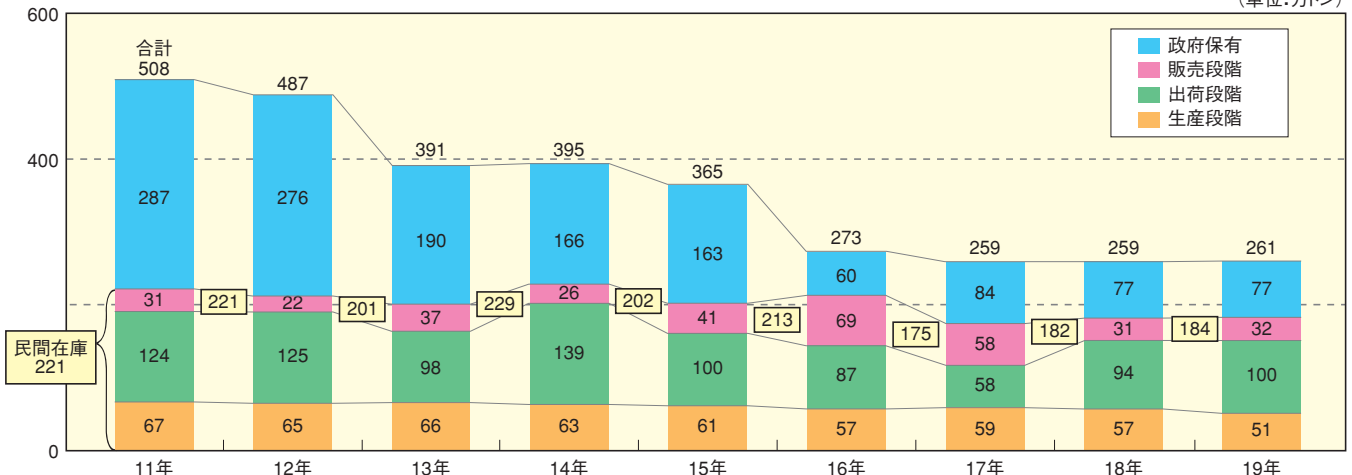
資料：農林水産省調べ

II 在庫の状況

●民間流通及び政府における平成19年6月末の在庫量は261万トン(図表2)。

図表2 民間流通及び政府における6月末在庫の推移

(単位:万トン)

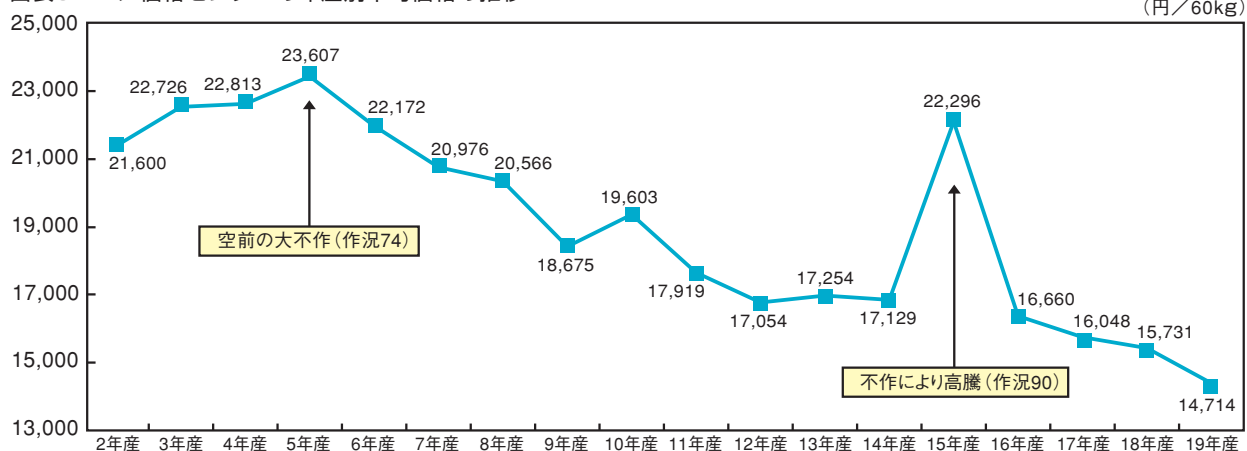


資料：農林水産省調べ

III 価格の動向

- コメ価格センターの入札価格は、作況99でありながら、多くの銘柄で前年産を大幅に下回る異常事態(図表3)。
- このような特殊な状況にかんがみ、米緊急対策を実施。

図表3 コメ価格センターの年産別平均価格の推移



資料: コメ価格センター入札結果を基に作成

注: 1) 価格は包装代(紙袋)、抛出金、消費税を含んでいる。

2) 19年産については、11月28日現在の値である。

「米緊急対策」の概要

(平成19年10月29日農林水産省農政改革三対策緊急検討本部決定)

備蓄運営

- 政府は、備蓄水準を適正水準(100万トン)まで積み増すこととし、34万トンを年内に買入れ。市場への放出は、当面、原則として、抑制。

全農による非主食用処理

- 全農は、平成18年産うるち米の販売残10万トン相当量を非食用(飼料)へ処理。
- 政府は、全農に対する一部助成を用意。

平成20年産の生産調整の農協系統と行政の取組

- 生産調整目標は主食用販売数量と作付面積の二本立てとし、都道府県間調整のスキーム等を設ける。
- 目標の配分・作付・収穫等の各段階で、都道府県・地域における取組状況を把握し、強力に指導。
- 生産調整を実施しない者に対する強力な働きかけ。取組結果に応じた産地づくり交付金等の調整。
- 非主食用の米生産について、生産調整にカウントする仕組みを構築。
- 作況・過剰作付けによる生産オーバー分を生産者団体が主体的に処理する出口対策を構築。

農協系統、特に全農による米価安定のための取組

- 産地間の過度の安売競争を回避するよう、県本部・経済連・農協を指導。
- 消費者・スーパー・外食産業等への直接販売の拡大などによる安定的販路の確保。
- は種前契約・収穫前契約の拡大。
- 「篩下米」や非主食用米の集荷・販売体制の確立。
- 平成20年産米の仮渡金に対する適切な対処。

消費者の信頼できる品質表示や適正流通の確保

- JAS法等に基づく取締りを徹底し、不適正な行為を行った販売業者には厳正に対処。

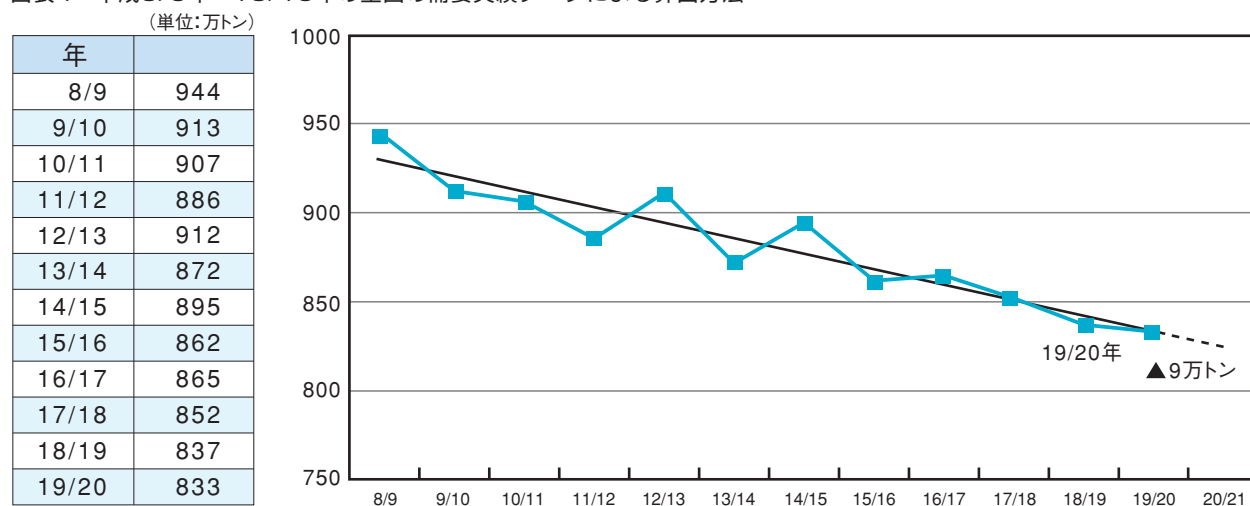
米の消費拡大

- 食育の一環として、「めざましごはんキャンペーン」をはじめ、米の消費拡大のための国民運動を効果的に推進。
- パン・麺・菓子等の原料としての米粉の利用を本格的に推進。

IV 平成20年産米の需要量に関する情報

- 平成20/21年(平成20年7月～平成21年6月の1年間)の需要見通し:819万トン
- ・19/20年の需要見通しは833万トン(図表4)。
- ・年平均の需要減少量は9万トン程度であるが、±5万トン程度の変動の可能性があることを考慮して固めに見通すこととし、20/21年の需要見通しは、819万トン(図表5)。

図表4 平成8/9年～18/19年の全国の需要実績データによる算出方法



図表5 平成19/20年及び20/21年の需要見通し

平成19/20年	833万トン
平成20/21年	819万トン

●都道府県別の需要量に関する情報の考え方:

平成20年産米の都道府県別の需要量に関する情報(図表6)については、20/21年の需要見通し819万トンを基礎に、従来のルールに即しつつ、次の点にも留意して算定。

(1) 過剰作付県

- ① ペナルティとして相当量(5万トン)を削減(過剰が500トン未満の県を除く)。
- ② 20年産の需要量に関する情報が前年より増加しないよう配慮。

(2) 生産調整目標達成県

他 の達成県より大幅に目標数量が減少しないよう配慮。

以上の結果を全国集計すると815万トン(面積換算すると154万ha)。

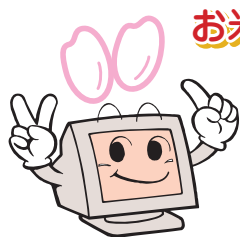


図表6 平成20年産米の都道府県別の需要量に関する情報

(単位:トン、ha)

都道府県	需要量に関する情報	
	需要量	面積換算値
北海道	598,930	112,580
青森	266,850	46,010
岩手	295,730	55,480
宮城	375,030	70,760
秋田	474,810	82,860
山形	381,940	64,300
福島	365,930	68,140
茨城	355,630	68,390
栃木	321,500	59,650
群馬	83,270	16,860
埼玉	161,820	32,690
千葉	263,010	49,530
東京	930	230
神奈川	15,180	3,140
新潟	571,490	106,030
富山	207,140	38,720
石川	132,700	25,670
福井	136,330	26,370
山梨	28,620	5,230
長野	206,910	33,210
岐阜	121,770	24,950
静岡	87,430	16,720
愛知	144,370	28,530
三重	150,020	30,000

都道府県	需要量に関する情報	
	需要量	面積換算値
滋賀	174,810	33,750
京都	80,880	15,830
大阪	27,980	5,680
兵庫	193,400	38,370
奈良	43,630	8,500
和歌山	37,020	7,510
鳥取	72,510	13,860
島根	98,050	19,300
岡山	167,040	31,760
広島	138,370	26,460
山口	121,870	24,130
徳島	61,510	12,980
香川	76,640	15,360
愛媛	79,840	16,030
高知	52,110	11,350
福岡	197,260	39,370
佐賀	152,530	28,780
長崎	66,340	14,000
熊本	206,460	40,090
大分	127,160	25,280
宮崎	103,150	20,970
鹿児島	120,600	25,180
沖縄	3,220	1,040



お米・ごはん情報満載のホームページ **米ネット**

米穀機構のホームページ「米ネット」では、お米の価格・消費・生産などの統計データをはじめ、生産者の皆様向けのお米に関する情報やすぐに役立つごはん料理レシピなど最新の情報を常時提供しています。

また、生産者の皆様からの「米ネット」に関するご提案・ご要望をお待ちしております。

「生産者のコーナー」の中の「意見を投稿する」の投稿フォームからEメールをご利用ください。皆様のアクセスをお待ちしています。